

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コンビニおでんもプラスチックごみ削減 割り引きの動き広がる」
- 2) 「スプレッド、廃棄レタス葉を商品化 食品ロス削減」
- 3) 「“Afternoon Tea” が家を作る！？サステイナブルな新提案」

1) 「コンビニおでんもプラスチックごみ削減 割り引きの動き広がる」

大手コンビニエンスストアでは、早くもおでんの販売が始まっているが、ことしは、プラスチックごみの削減に向けて、鍋などを持参した買い物客への割り引きサービスを導入する動きが出ている。

このサービスは、ローソンが東京、埼玉、千葉の1都2県のおよそ30店舗で14日から始めた。買い物客が鍋などを持参すると、カウンターにある調理済みのおでんを、5個ごとに39円割り引きした価格で購入できる。店で提供されるおでん用のプラスチック容器は、1つ当たり5グラムから10グラムで、会社では、サービスの利用実績から、実際にどの程度使用量が減るか検証したうえで、おでん商戦が本格化する来月以降、全国にサービスを拡大させる方針。

広報を担当する谷恒和マネージャーは「プラスチック削減を顧客とともに取り組みたい」と話していた。

容器の持ち込みを促す取り組みでは、このほか、大手コーヒーチェーンのスターバックスが、コロナ禍で一時取りやめていたマイボトルなどを持参した客に、飲み物を1杯20円安く販売するサービスを再開している。

また、東京 目黒区が、今月から対象となる区内の飲食店で、持ち帰り用に容器を持参した客に100円割り引くサービスを始めており、プラスチックごみの削減に向けた対応が求められる中、企業や自治体の間で取り組みが広がっている。地球環境対策としてプラスチックごみの削減が呼びかけられる中、小売りや外食などの業界では、このところ、脱プラスチックに向けた対応が進んでいる。

このうちプラスチック製のレジ袋は、去年7月から、全国の小売店で有料化が義務づけられた。有料化に伴い、スーパーやコンビニなどではレジ袋を辞退する客が増え、大手コンビニ各社のレジ袋辞退率は70%以上と、有料化導入前の3倍程度に上っている。また、ことし6月に成立した「プラスチック資源循環促進法」に基づき、政府は、無料で配られるスプーンやストローなど使い捨てのプラスチック製品を大量に提供する事業者には、提供方法を見直すなどの対策を新たに義務づける方針だ。

こうした中、コンビニ各社ではスプーンの素材を試験的に木製に切り替えたり、プラスチックの使用量を減らしたものを採用したりしたほか、大手コーヒーチェーンが今月以降、店が提供する使い捨てのストローをすべて紙製に切り替えると発表するなど、法律の施行も見据えた動きが広がっている。

さらに、ホテルや旅館などで提供される「歯ブラシ」や「くし」のほか、クリーニング店で使われる「ハンガー」なども新たな法律に基づき、対策が必要なプラスチック製品に指定される見通しで、消費者に身近な幅広い業種で今後、脱プラスチックへのさらなる対応が求められることになる。

(2021/09/14 NHKニュース)

「脱プラ」の取組が次々と発表される中、やはりコンビニやスーパーは比較的プラスチックの使用が多く、また削減の余地も多くあるため率先して動きが広まっているように見える。ただ一人暮らしの方は鍋を持参することに少し抵抗があるかもしれないので、プラを使用しない容器開発やデポジット制の導入など改善方法もこれから登場しそうだ。利用者の多いコンビニコーヒーも、スタバのようにマイボトルOKにするなど、コンビニの進化に期待したい。

2) 「スプレッド、廃棄レタス葉を商品化 食品ロス削減」

植物工場運営のスプレッド（京都市）は13日、レタスの葉を袋に詰めた商品「ちぎり」を発売した。大きさや重さを調整するために廃棄していた葉の一部を活用する。1袋70～80グラム入りで、価格は100円前後を想定する。全国のスーパーで販売する。

同社は京都府木津川市と亀岡市の植物工場です。1日当たり計5万1000株のレタスを生産する。主力商品は株状のレタスだが、商品の規格に合わせるために品質に問題のない葉も検品で取り除いていた。この葉のうち約55%分を集めて包装した。新商品は、葉のみのため捨てる部分が少なく、家庭での生ごみ削減にもつながる。

スプレッドは2007年から植物工場を稼働させている。木津川の工場では、あらゆるモノがネットにつながるIoTを使った栽培管理システムなどを導入し、栽培工程の7割を自動化している。

（2021/09/13 日本経済新聞）

農作物の廃棄はこれまでも問題になっており、現在ではネットを活用して消費者の手に届くようなシステムも増えているが、このように小分けで販売してもらえれば少人数世帯にはもちろん多くの人に喜ばれると思う。例えばこの商品であれば、「家飲み」の席で手軽に彩りを添えるのに使えそうなので惣菜コーナーで販売しても良いと思う。カット野菜の種類も以前と比べると随分増えているが、さらに選択肢が増えれば嬉しいし廃棄ロスも減るなら一石二鳥だ。あとは何より「規格」自体を見直すことがそもそも必要なのではないかと思う。

3) 「“Afternoon Tea” が家を作る！？サステイナブルな新提案」

ライフスタイルにまつわるオリジナルブランドを多数展開する「サザビーリーグ」の「Afternoon Tea」から、暮らしの空間を提案する新ブランド「Afternoon Tea HOUSE」が展開された。

「サステイナブルな暮らし」がコンセプトの同ブランドでは、環境に配慮した素材を採用しつつ、家族目線の生活動線をしっかりと確保。

9月3日よりオープンした大分県のモデルハウスは、白を基調としたシンプルな内装で、吹き抜けとウッドデッキから自然光をたっぷり取り入れられる大きな窓を配置。日中は明かりいらずで、快適に過ごすことができそうだ。

その下にたたく4mの自慢のダイニングキッチンや1段下りの広々としたリビングスペースなど、開放感あふれる間取りがとても魅力的で、さらに屋根付きのウッドデッキには照明も完備。

この半屋外スペースで語らうもよし、アウトドア気分で食事をするもよしと、それぞれのライフスタイルに合った使い方ができる。

(2021/09/13 TABI LABO)

SDGsに関心を向ける企業が多い中、CO2排出に関しては建築業界がかなり大きなカギを握っていると感じる。建築物のライフサイクルにおいてCO2の排出量が莫大に多いことはもちろん、建材などの廃棄物も近年問題になりつつある。「オシャレで素敵なデザイン」というプラスな要素に加えて、なぜサステナブルでないといけないのか、建築物が抱える問題も家の購入を考える人たちに知っていただけるようなサービスとなってほしい。